

株式会社日新 2015年3月期第2四半期 決算説明会

第5次中期経営計画、順調にスタート
～ 自動車物流・アジアへの積極投資と
国内危険品業務のサービス拡充 ～



2014年11月21日

2014年3月期決算説明会
(2014年5月23日開催)

株式会社日新
2014年3月期決算・中期経営計画説明会

「第5次中期(3ヵ年)経営計画」スタート
営業利益3割増へ
～ 自動車関連物流を軸にしたグローバル展開加速 ～
2014年5月23日
株式会社日新
NISSIN CORPORATION

今期

第2四半期実績は
増収、営業増益

通期計画は
当期利益を除き変更なし

自動車部品物流の
見通しは引き続き好調

インドネシアにおける
物流事業に新たな展開



2015年3月期第2四半期実績

～ ほぼ計画通り順調に推移 ～

増収、営業増益

- アジア地域を中心に自動車関連物流が好調に推移、日本・欧州地域の改善に加え旅行事業が寄与
- 当期利益の減少は、第1四半期での特別損失

日本は 航空貨物・化学品が 順調

- 日本は自動車・港湾運送・海上輸入が伸び悩むも、航空貨物・化学品に加え関係会社も順調に推移

下期も 自動車関連物流を 取り込む

- 引き続き好調が見込まれるアジア・米州地域での自動車部品物流の取り込みに注力

- アジア地域を中心に自動車関連物流が好調に推移、日本・欧州地域の改善に加え旅行が寄与
- 当期利益の減少は、第1四半期での特別損失

(単位:百万円)

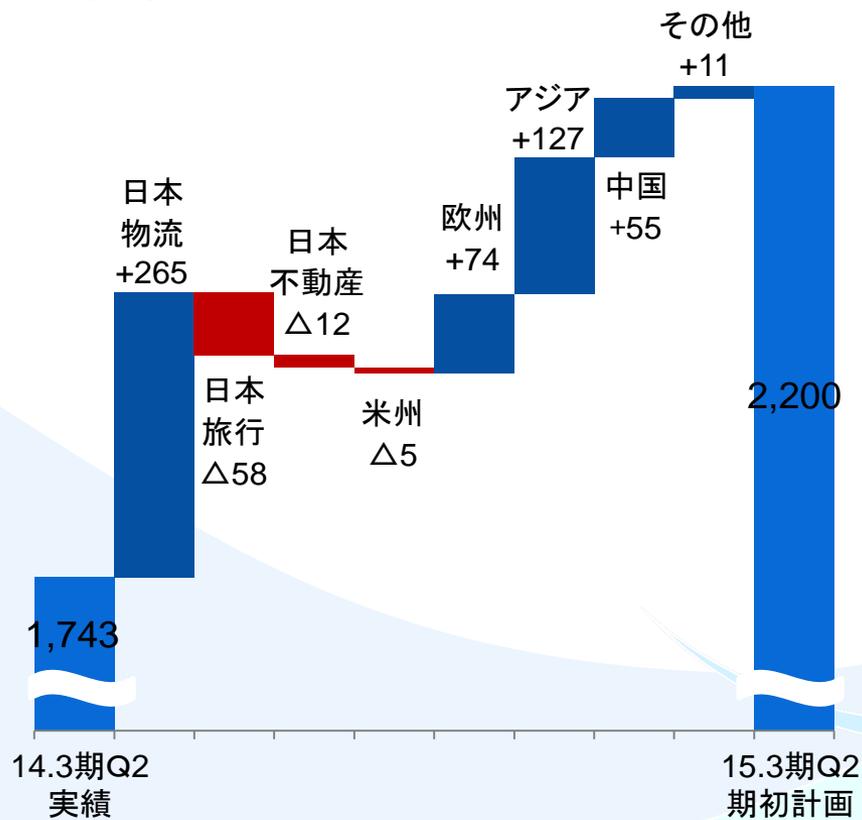
| | 2015年3月期 第2四半期 実績 | 修正計画 (2014.8.6) | 修正計画比 | 前年同期 実績 | 前期比 |
|------|-------------------------|--------------------|--------|------------|--------|
| 売上高 | 100,073 | 99,000 | 1.1% | 93,151 | 7.4% |
| 営業利益 | 2,022 | 2,200 | △8.1% | 1,743 | 16.0% |
| 経常利益 | 2,028 | 2,300 | △11.8% | 1,961 | 3.4% |
| 特別損益 | △756 | - | - | △121 | - |
| 当期利益 | 835 | 700 | 19.3% | 1,230 | △32.1% |

2015年3月期 第2四半期 地域別実績(営業利益)

- 日本は自動車・港湾運送・海上輸入が伸び悩むも、航空貨物・化学品に加え関係会社も順調
- 米州地域は年初の寒波による荷動き停滞響く、欧州・アジア地域はほぼ計画通り
- 旅行は取扱増に加え業務効率化効果で伸長

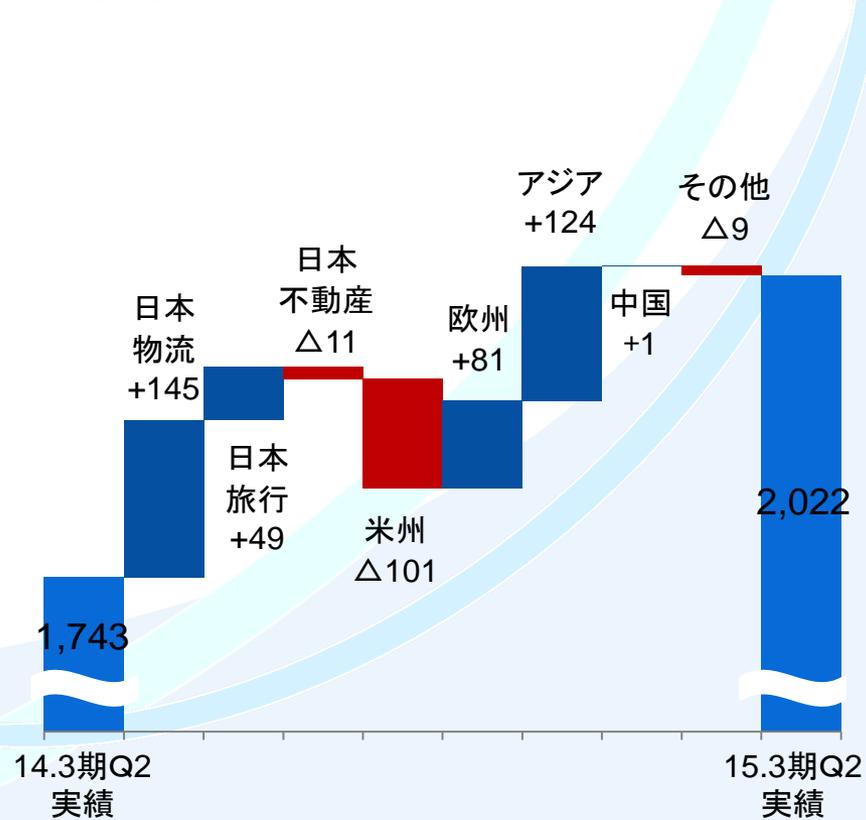
期初計画(2014.5.8)

(単位:百万円)



実績

(単位:百万円)



※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

各施策の取組み状況(単体)

第2四半期 期初計画(前年同期比増減)

第2四半期結果

①自動車関連

北米・中国向け部品輸送の堅調な推移

日本着部品輸入の取扱増加

+50百万円

北米・中国向け輸出順調も、アジア向け輸出低調

輸入部品取扱い順調

輸出完成車大幅減少

△10百万円

②港湾運送・倉庫

中国船社他の大型船化によるターミナルでのコンテナ取扱拡大

ターミナル業務の人員配置効率化

倉庫の集約による業務効率化

+120百万円

中国船社業務回復も、一部船社航路再編響く

集約効果

+50百万円

③その他

海上輸入

製材輸入の堅調な推移と合板の取扱回復

日用品輸入の取扱増加

食品輸入の取扱回復

△20百万円

消費増税響き、伸び悩み

消費増税響き、伸び悩み

乳製品以外は伸び悩み

△40百万円

化学品関連

潤滑油、添加剤の輸出取扱増加

化学品生産の回復による取扱増加

+20百万円

円安効果で輸出増加

+40百万円

航空輸送

輸入取扱増加(食品、花卉、アパレル等)

混載効率の改善

+20百万円

米国発生鮮品低調

輸出底打ち、航空会社の集約推進

+60百万円

物量推移

～ 日本発航空貨物は回復基調 ～

航空貨物

地域別輸出取扱物量 → P10

- 日本発は自動車関連を中心に回復基調、米州発は生鮮伸び悩み、アジア発は前年反動・海上シフト
- 下期は、自動車関連に加え電子部材の寄与もあり、各地域発とも取扱増を見込む

日本発輸出混載取扱物量 → P11

- 底を打ち、自動車関連貨物(実車、部品)を中心に、アパレル関連が順調に推移
- 下期は、自動車関連、アパレル関連を中心に引き続き回復基調での推移を見込む

日本着輸入取扱件数 → P12

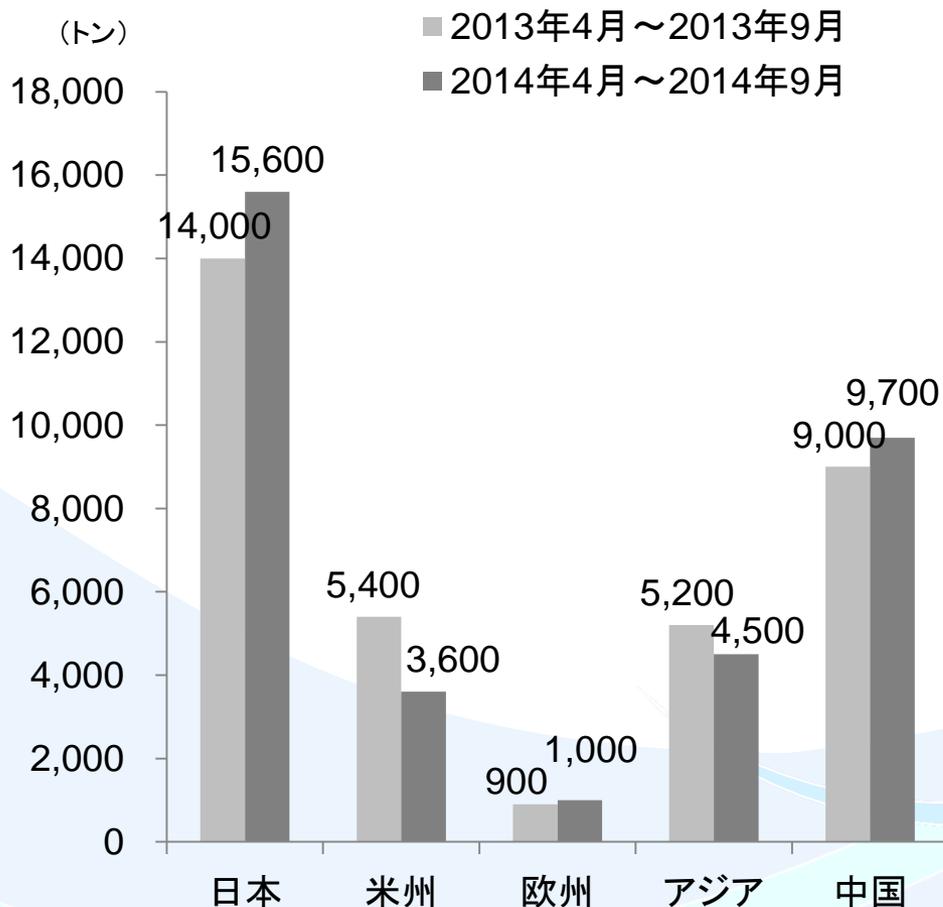
- 自動車部品・医薬品関連の取扱いが順調も、北米発などの生鮮が低調
- 下期は、年末の需要期に向け食品、花卉、アパレルなどを中心に回復を見込む

地域別輸出取扱物量 → P13

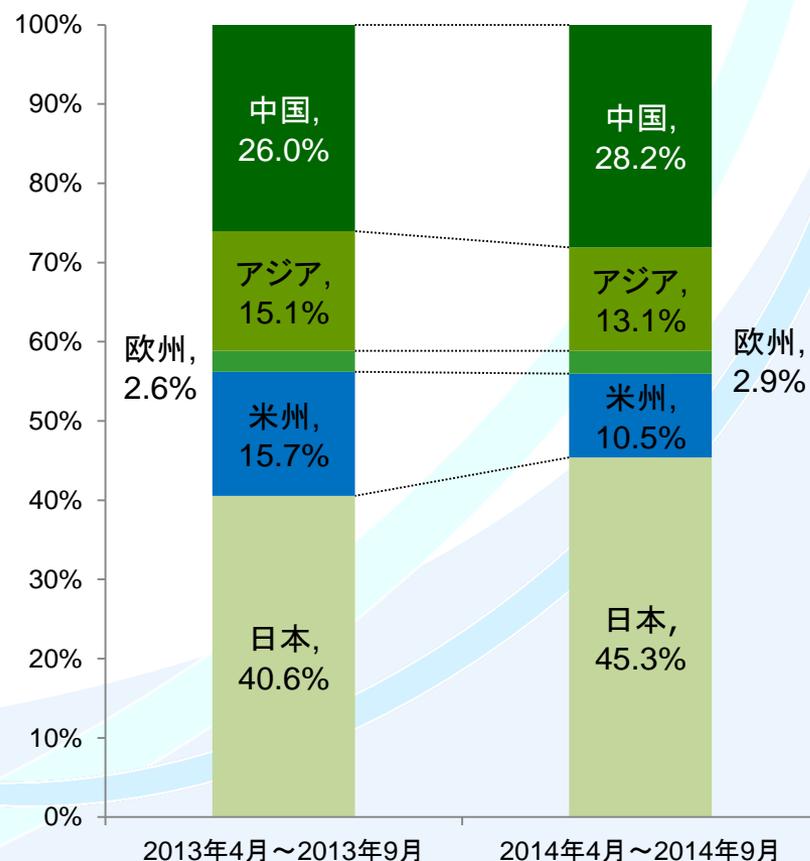
- 中国発は米州向け自動車関連が順調に推移、日本発は米州向け自動車関連が堅調も、アジア向けが低調に推移
- 下期は、中国発は引き続き順調、日本発はアジア向けの回復を見込み、米州向けは不透明

海上貨物

- 日本は自動車関連を中心に回復基調、米州は生鮮伸び悩み、アジアは前年反動・海上シフト
- 下期は、自動車関連に加え電子部材の寄与もあり、各地域とも取扱増を見込む

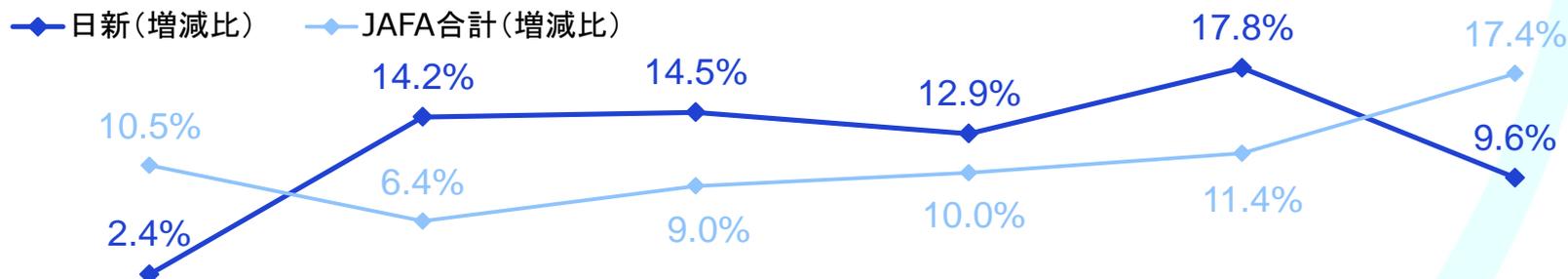


地域構成比 推移

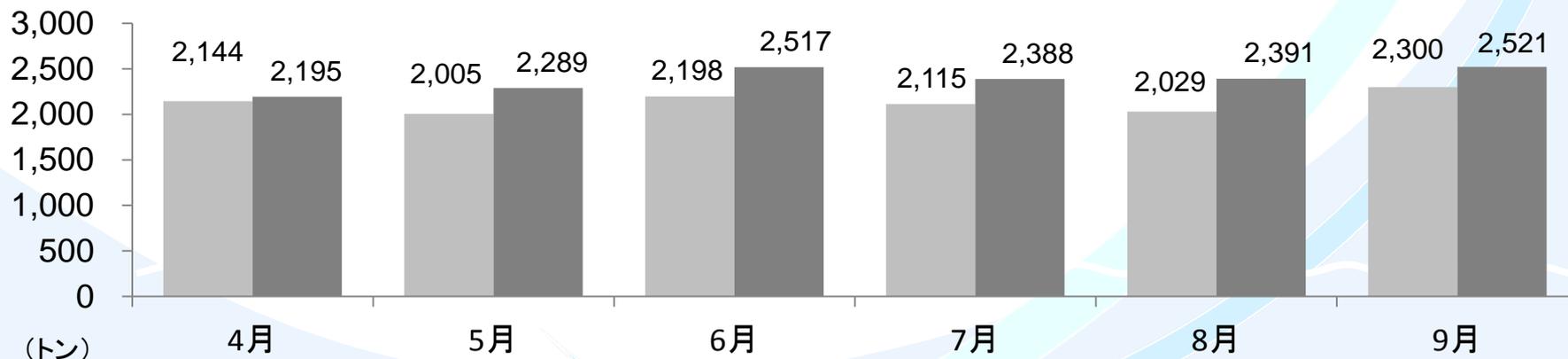


航空貨物 日本発輸出混載取扱物量 月別推移

- 底を打ち、自動車関連貨物(実車、部品)を中心に、アパレル関連が順調に推移
- 下期は、自動車関連、アパレル関連を中心に引き続き回復基調での推移を見込む



■ 2013年度 ■ 2014年度

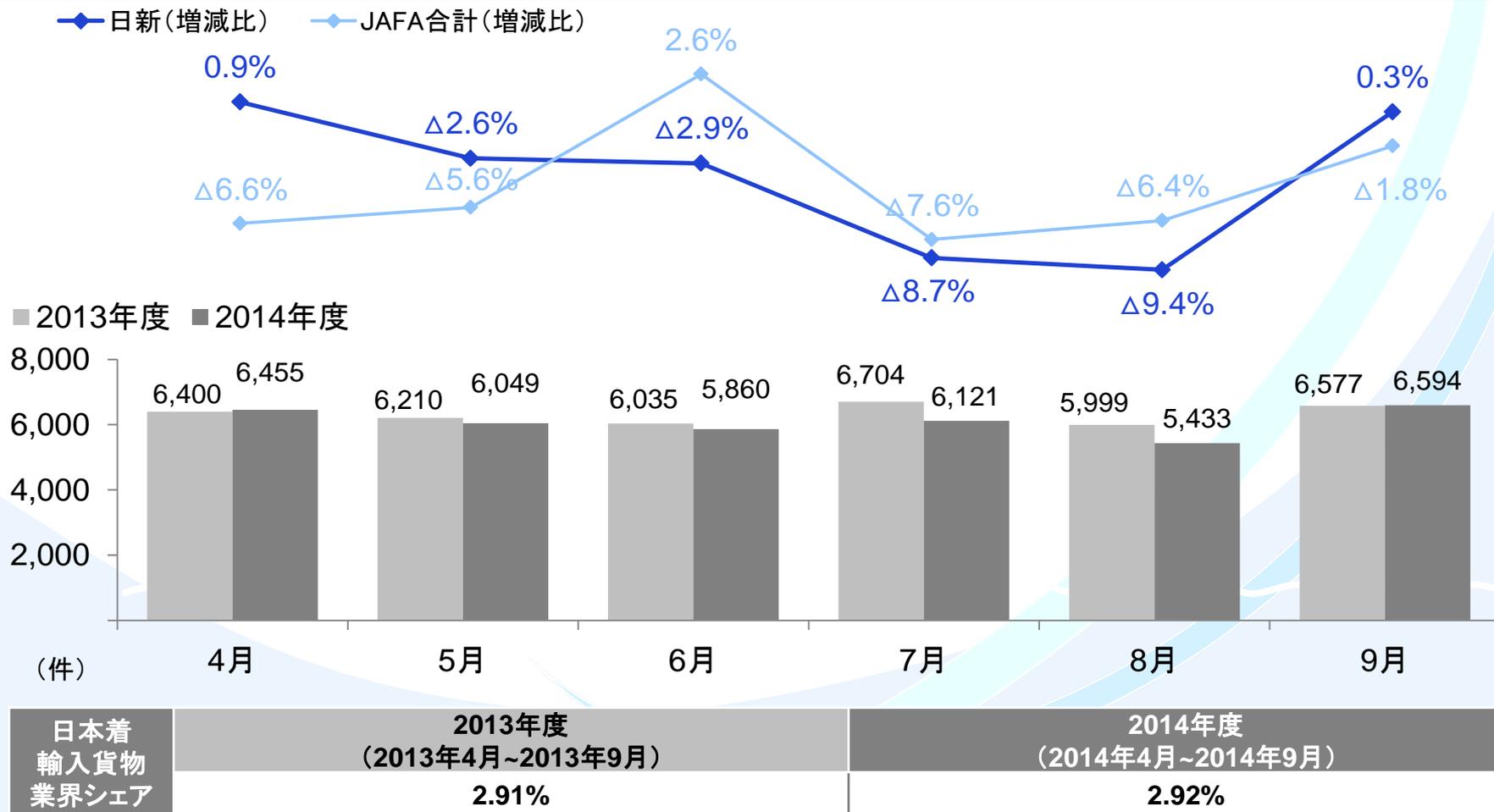


| 日本発混載貨物業界シェア | 2013年度 (2013年4月~2013年9月) | 2014年度 (2014年4月~2014年9月) |
|--------------|-----------------------------|-----------------------------|
| | 3.03% | 3.06% |

※ 業界シェアは当社推計

航空貨物 日本着輸入取扱件数 月別推移

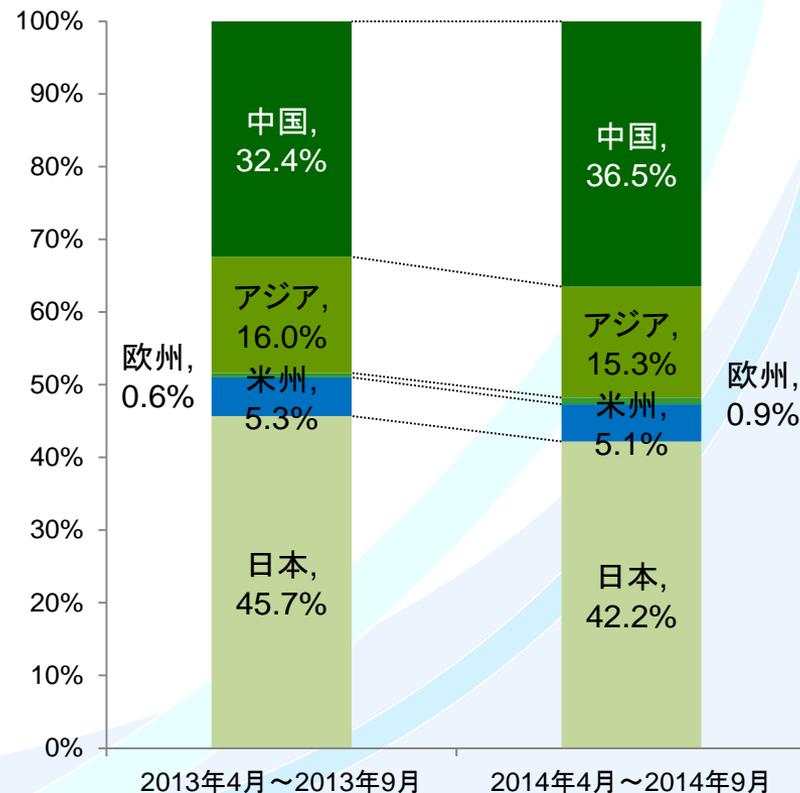
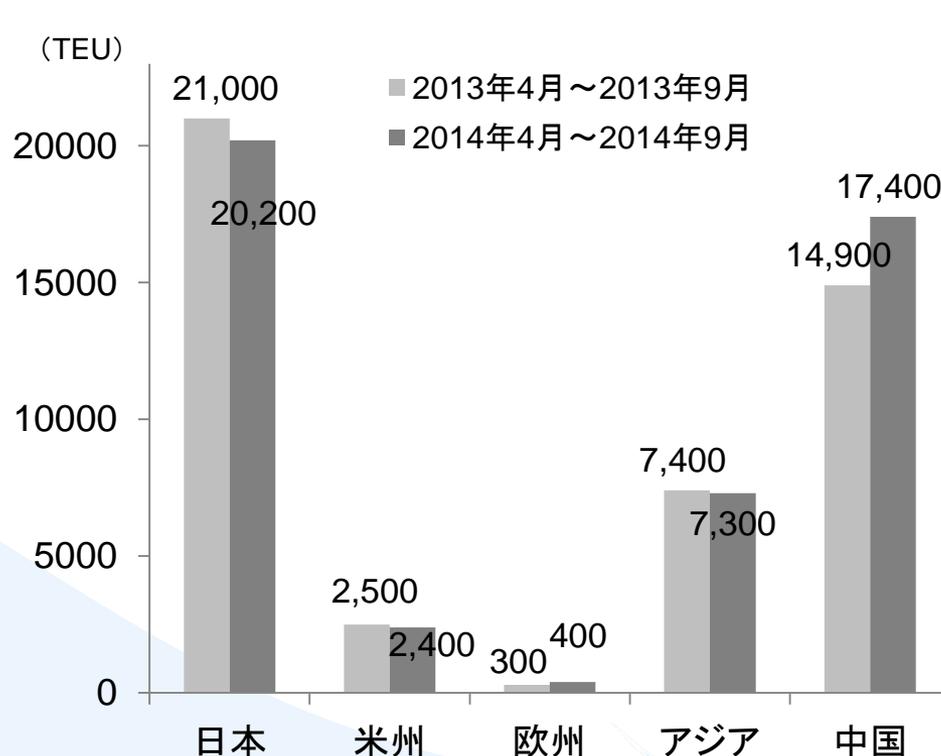
- 自動車部品・医薬品関連の取扱いが順調も、北米発などの生鮮が低調
- 下期は、年末の需要期に向け食品、花卉、アパレルなどを中心に回復を見込む



※ 業界シェアは当社推計

NVOCC(FCL) 地域別輸出取扱物量

- 中国発は米州向け自動車関連が順調に推移、日本発は米州向け自動車関連が堅調も、アジア向けが低調に推移
- 下期は、中国発は引き続き順調、日本発はアジア向けの回復を見込む、米州向けは不透明



※ TEU(Twenty feet Equivalent Unit): 20フィートコンテナ換算個数

| 日本発米州向け業界シェア | 2013年度 (2013年4月～2013年9月) | 2014年度 (2014年4月～2014年9月) |
|--------------|--------------------------|--------------------------|
| | 5.25% | 5.36% |

※ 業界シェアは当社推計

2015年3月期の見通し

～ 当期利益を除き、期初計画通り～

期初の想定

自動車関連

- ▲ 北米での完成車生産 増加
- ▲ アジアでの部品生産 増加
- ▲ 日本着の部品輸入 増加
- ▼ 日本発完成車輸出 減少

中国市場 関連

- ▲ 日中貿易 回復
- ▼ 中国経済 減速懸念

電機・電子 関連

- ▼ 業界の先行き 不透明

その他・一般

- ▲ 日本着の製材・合板輸入 堅調
- ▲ 日本発航空貨物マーケット回復

為替相場

2015年3月期 予算策定レート
1\$=¥102.92
EUR=¥141.65

足元の状況

- ▲ 北米での完成車生産 順調
- ▲ アジア発の部品輸出 順調
- ▲ 日本着の部品輸入 堅調
- ▼ 日本発完成車輸出 減少

- ▲ 日中貿易 回復基調
中国船の取扱物量増加
- ▼ 中国経済 減速懸念継続

- ▼ 国内配送 消費増税の影響で低調

- ▼ 製材・合板輸入 低調
- ▲ 航空輸出 底打ち回復基調

1\$=¥118.73、EUR=¥148.82
(2014年11月20日現在)

【為替換算差(営業利益段階)】
米ドル、ユーロは1円の変動で、17百万円の影響

- 日本における物流事業の回復およびコスト削減効果に加え、アジア・中国地域の下支えにより、通期計画の達成を見込む

(単位:百万円)

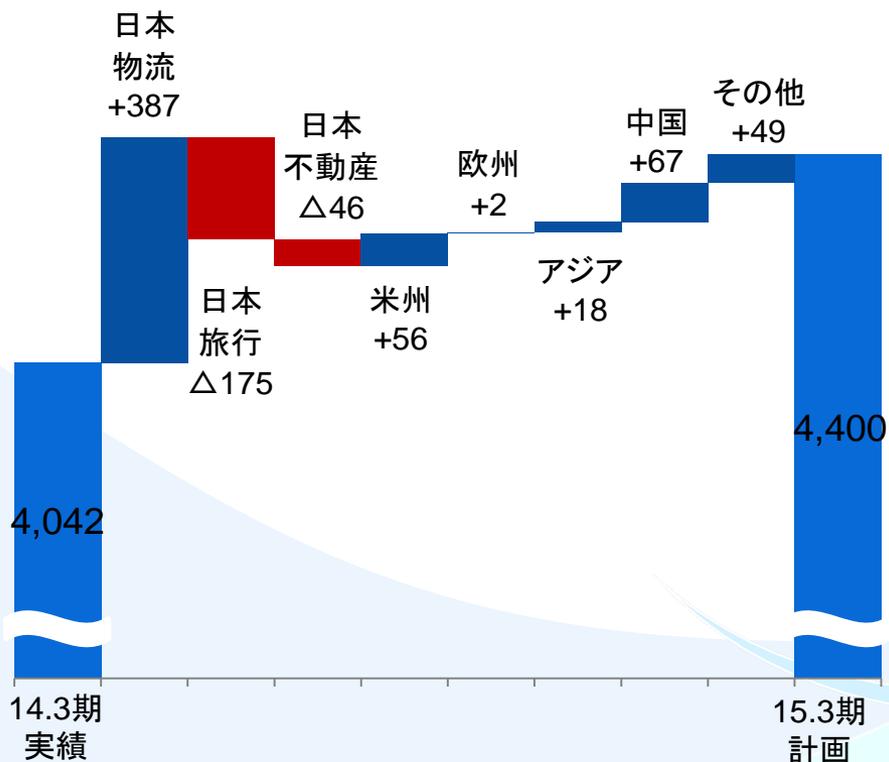
| | 2014年3月期 実績 | 期初計画 (2014.5.8) | 修正計画 (2014.8.6) | 2015年3月期 第2四半期 実績 | 計画に 対する 進捗率 |
|------|----------------|--------------------|--------------------|-------------------------|-------------------|
| 売上高 | 193,709 | 198,000 | 198,000 | 100,073 | 50.5% |
| 営業利益 | 4,042 | 4,400 | 4,400 | 2,022 | 46.0% |
| 経常利益 | 4,681 | 4,700 | 4,700 | 2,028 | 43.1% |
| 当期利益 | 2,624 | 2,900 | 2,150 | 835 | 38.8% |

2015年3月期 地域別通期計画(営業利益)

- 日本は航空貨物・化学品の伸長、関係会社の順調な推移に加え、コスト削減効果で利益押し上げ
- 米州地域は年初の停滞響く、アジア・中国地域はほぼ計画通り
- 旅行は取扱増と業務効率化効果で増益

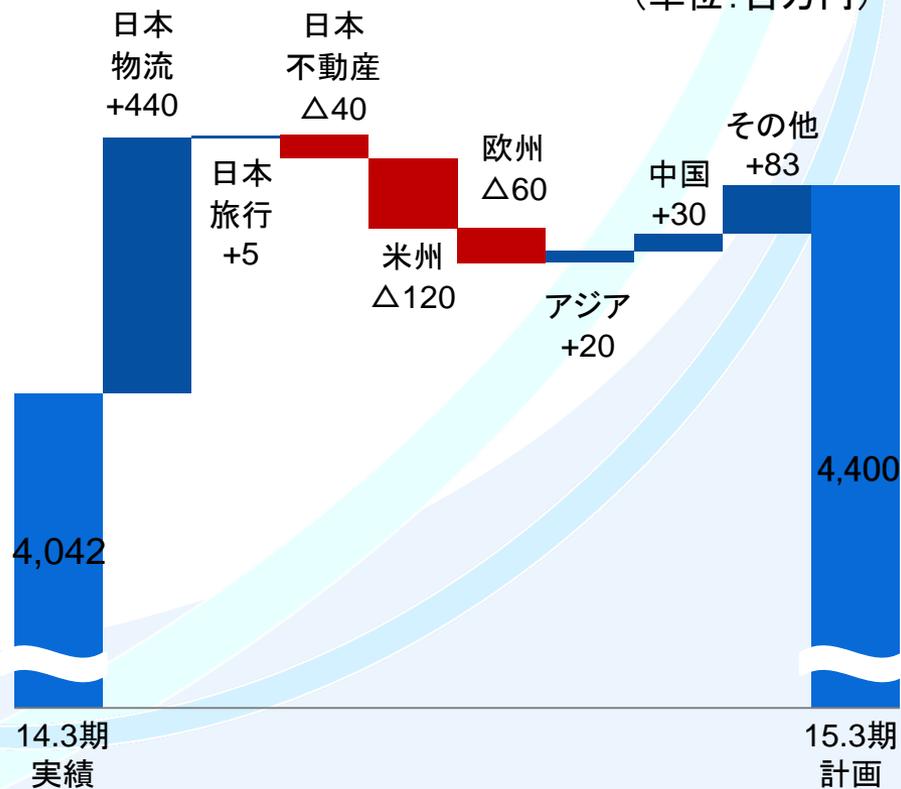
期初計画(2014.5.8)

(単位:百万円)



修正計画

(単位:百万円)



※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

各施策の取組み状況(単体)

| 期初想定(前年同期比) | | | | 修正計画(前同比) | | | 見通し | |
|------------------------------|---------------------|------|------|-----------|------|------|---------------------|-----------------------|
| (単位:百万円) | | | | (単位:百万円) | | | | |
| | | 上期計画 | 下期計画 | 通期計画 | 上期実績 | 下期計画 | 通期計画 | |
| ①自動車関連 | | | | | | | | |
| 北米・中国向け部品輸送の堅調な推移 | | | | | | | 北米・中国向け輸出堅調、アジア向け回復 | |
| 日本着部品輸入の取扱増加 | | +50 | +10 | +60 | △10 | △10 | △20 | 堅調に推移 輸出完成車低調 |
| ②港湾運送・倉庫 | | | | | | | | |
| 中国船社他の大型船化によるターミナルでのコンテナ取扱拡大 | | | | | | | | 中国船社業務は順調 航路再編は不透明 |
| ターミナル業務の人員配置効率化 | | +120 | +40 | +160 | +50 | +20 | +70 | 集約効果継続 |
| 倉庫の集約による業務効率化 | | | | | | | | |
| ③その他 | | | | | | | | |
| 海上輸入 | 製材輸入の堅調な推移と合板の取扱回復 | | | | | | | 製材・合板回復遅れ |
| | 日用品輸入の取扱増加 | △20 | +110 | +90 | △40 | +60 | +20 | 後半回復 |
| | 食品輸入の取扱回復 | | | | | | | 需要期を迎え回復 |
| 化学品関連 | 潤滑油、添加剤の輸出取扱増加 | +20 | +20 | +40 | +40 | +50 | +90 | 順調に推移 |
| | 化学品生産の回復による取扱増加 | | | | | | | |
| 航空輸送 | 輸入取扱増加(食品、花卉、アパレル等) | +20 | +30 | +50 | +60 | +80 | +140 | 需要期を迎え回復 |
| | 混載効率の改善 | | | | | | | 物量回復、効率化継続 |

各重点施策の進捗(2015年3月期)

| 3つの重点施策 | 具体的取組み | 利益寄与開始 |
|-------------|---|--------|
| 1. 海外事業の強化 | クロスボーダー輸送 <ul style="list-style-type: none"> ● タイ(バンコク)・マレーシア(マラッカ)間 ● 米国(LA)・メキシコ(グアダラハラ)間 | 上期～ |
| | タイ・プラチンブリ自動車部品用倉庫開設 | 上期～ |
| | 無錫保税区でのスマホ関連部材保管・配送業務 | 下期～ |
| | インドネシア新倉庫会社の連結化 | 下期～ |
| 2. 国内事業の再構築 | 神戸港ターミナル活用 輸出用中古建機・自動車置場 | 下期～ |
| | 蘭ISOタンクコンテナオペレーター「デン・ハート社」と 総代理店契約締結、業務開始 | 下期～ |
| | 名古屋発危険品海上混載輸送サービス | 下期～ |
| 3. 経営基盤の強化 | 業務効率化推進 — 人件費・経費削減 | 下期～ |

ISOタンクコンテナによる新サービスの開始

- 世界的なISOタンクコンテナのオペレーターである、デン・ハート社(本社オランダ)の日本における総代理店として国際一貫輸送サービスを開始

国際一貫輸送



液体化学品輸送



DEN HARTOGH

輸出イメージ

充填

輸送・通関・B/L発行の一貫輸送サービス

荷卸し



国内工場

日本各港
(東京、横浜、川崎、千葉、名古屋、大阪、神戸、博多、門司、徳山)

海外港

海外工場

国内タンクデポ

- クリーニング
- メンテナンスを実施



海外タンクデポ

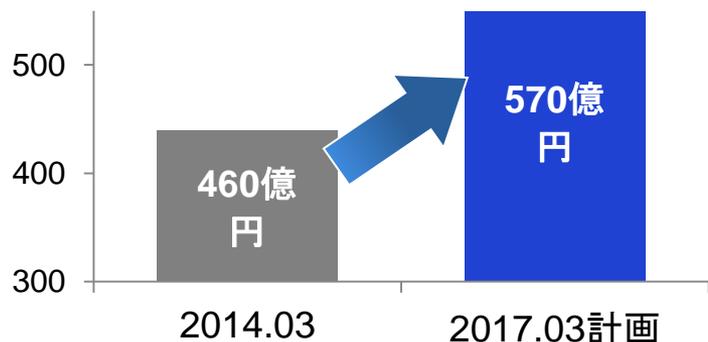
- クリーニング
- メンテナンスを実施



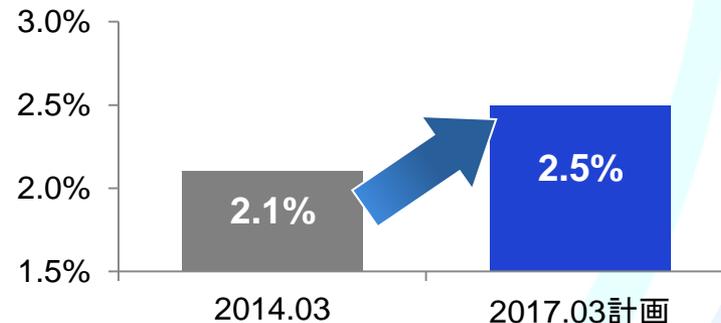
第5次中期経営計画の見通し

～ 順調なスタート～

海外現地法人の売上高拡大



連結営業利益率の改善



第5次中期経営計画

(単位:百万円)

| | 2014年3月期 実績 | 第5次中期経営計画 | | | |
|-------|----------------|--------------------------------|----------------|----------|-----------|
| | | 2015年3月期 修正計画 (2014.8.6) | 2016年3月期 計画 | 2017年3月期 | |
| | | | | 計画 | 2014年3月期比 |
| 売上高 | 193,709 | 198,000 | 205,000 | 213,000 | 10.0% |
| 営業利益 | 4,042 | 4,400 | 4,900 | 5,400 | 33.6% |
| 経常利益 | 4,681 | 4,700 | 5,100 | 5,600 | 19.6% |
| 当期純利益 | 2,624 | 2,150 | 3,300 | 3,600 | 37.2% |
| 営業利益率 | 2.1% | 2.2% | 2.4% | 2.5% | — |
| ROE | 6.1% | 4.6% | 6.7% | 7.2% | — |

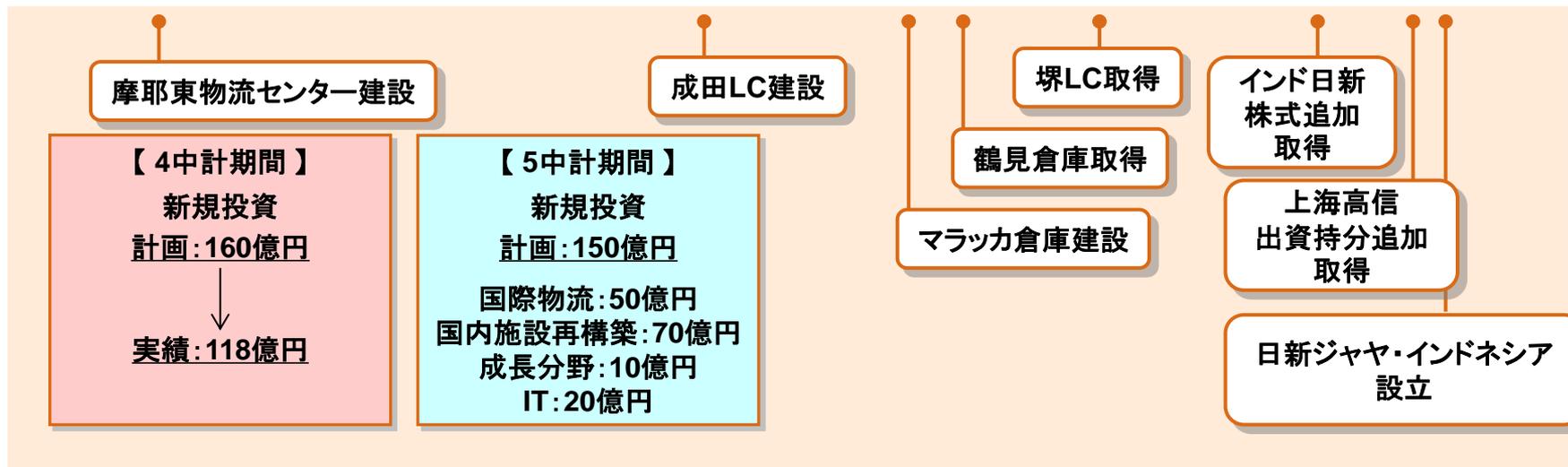
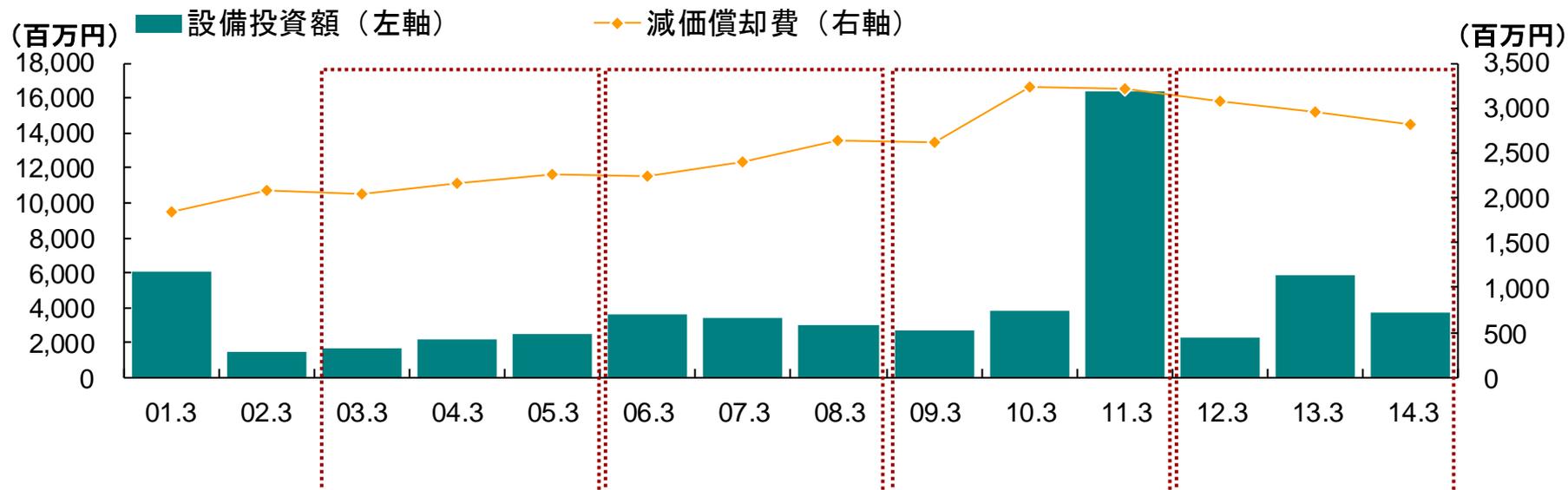
| 3つの重点施策 | | 取組み |
|---|-----------------|---|
| 1. 海外事業の強化 自動車関連物流を軸に 展開加速 | 海外現地法人の事業基盤強化 | <ul style="list-style-type: none"> ● 輸出入業務・保管サービスの高品質化 ● 新たな業務・顧客の開拓 |
| | 海外地域別の取組み | |
| | アジア | <ul style="list-style-type: none"> ● 大メコン圏・マレー半島広域物流網の整備 ● ラオス、ミャンマー、カンボジアでの事業展開推進 |
| | 中国 | <ul style="list-style-type: none"> ● 輸出入業務体制の拡充 |
| 2. 国内事業の再構築 コスト競争力の強化 | 収益力向上 | <ul style="list-style-type: none"> ● 陸運事業の再構築 ● 港湾施設(ターミナル)運営サービスの再編、効率化 |
| | 新規事業展開、既存業務の拡大 | <ul style="list-style-type: none"> ● 成長分野(食品・医薬医療・危険品物流)への展開強化 ● 高収益施設への建替え ● ITサービス提供の事業化推進 |
| 3. 経営基盤の強化 | 資産の効率化 | <ul style="list-style-type: none"> ● 管財機能の強化、不動産の活用 ● 横浜本社ビル、北仲通北地区の再開発 |
| | グローバルリスク管理体制の強化 | |

| 3つの重点施策 | 具体的取組み | 利益寄与開始 (予定) |
|-------------|---------------------|----------------|
| 1. 海外事業の強化 | 米国オハイオでの自動車部品倉庫増設 | 2015年度上期 |
| | メキシコ中部におけるミルクラン輸送 | 2015年度下期 |
| 2. 国内事業の再構築 | 鶴見倉庫 危険品倉庫増設 | 2015年度下期 |
| | 梱包工場の取扱能力増強 | 2017年度以降 |
| 3. 経営基盤の強化 | 横浜本社ビル再開発 - 賃料コスト削減 | 2016年度以降 |
| | 北仲通北地区再開発 | 2017年度以降 |

- 横浜・北仲通北地区再開発事業に参画、住宅を中心に複合用途の開発が可能



投資および減価償却費の推移



自動車関連物流の展望



足元の見通し

マイナスはあるものの、
プラスを取り込む

国内は収益確保

- 生産拠点の移転により、完成車輸出業務は縮小。規模縮小の中、部品輸出入、内航船業務で収益を確保

北米・アジアでの
順調な生産継続

- 米国・メキシコ・マレーシアでは順調な生産が続く見通し
- クロスボーダー輸送、JIT対応で部品物流を取り込み

2~3年の方向性

グローバル・高品質が
明確な選定基準に

開発拠点の海外移
転による新たな
物流需要

- 開発拠点の海外移転に伴い、新たな開発用部品物流が発生
- 米オハイオで自動車部品倉庫増設

メキシコ生産
本格化

- メキシコでの完成車生産の本格化により、ベンダーを含め部品物流が増加
- ミルクラン対応で部品物流を取り込み

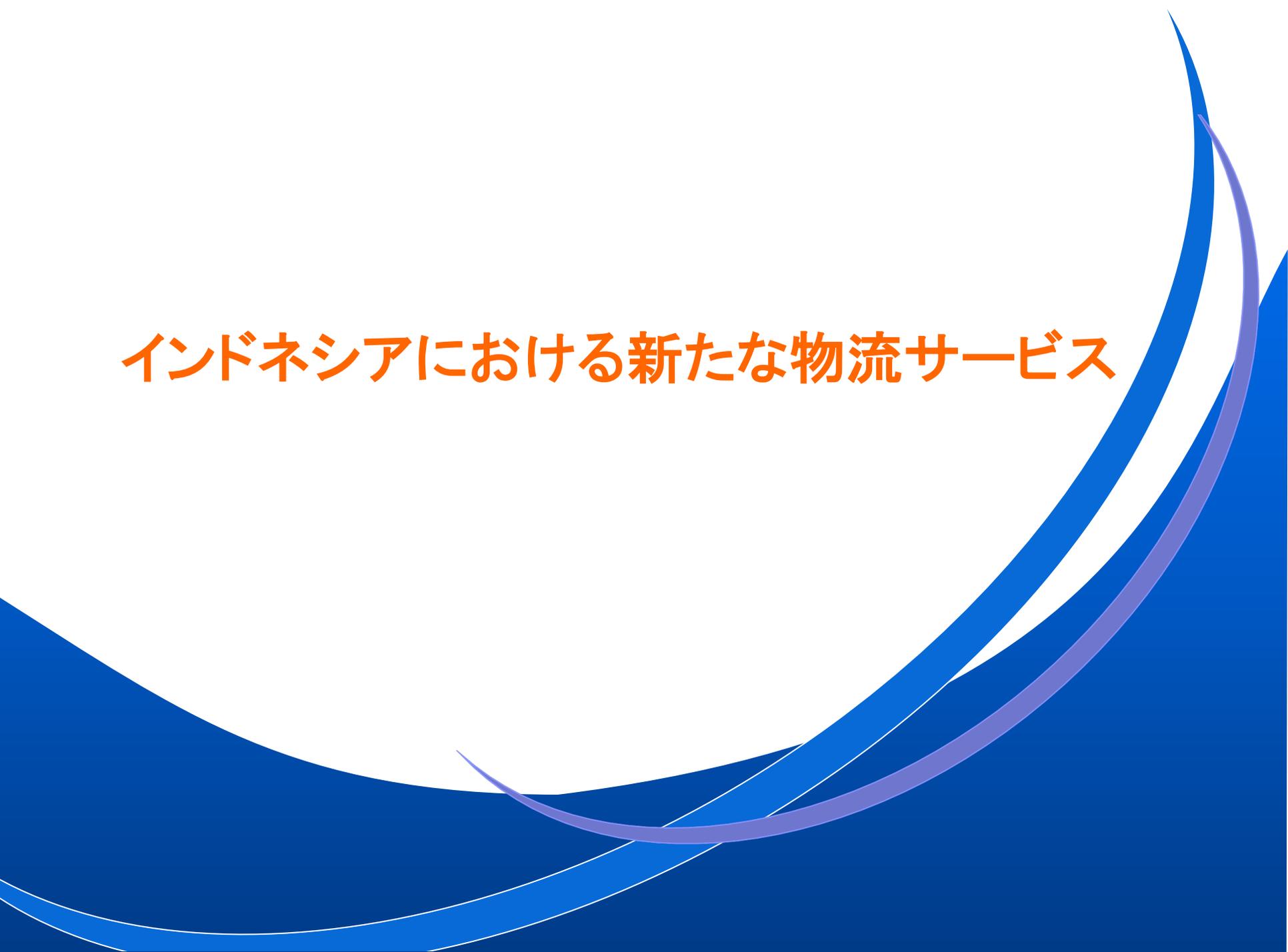
完成車輸出入増加
の可能性

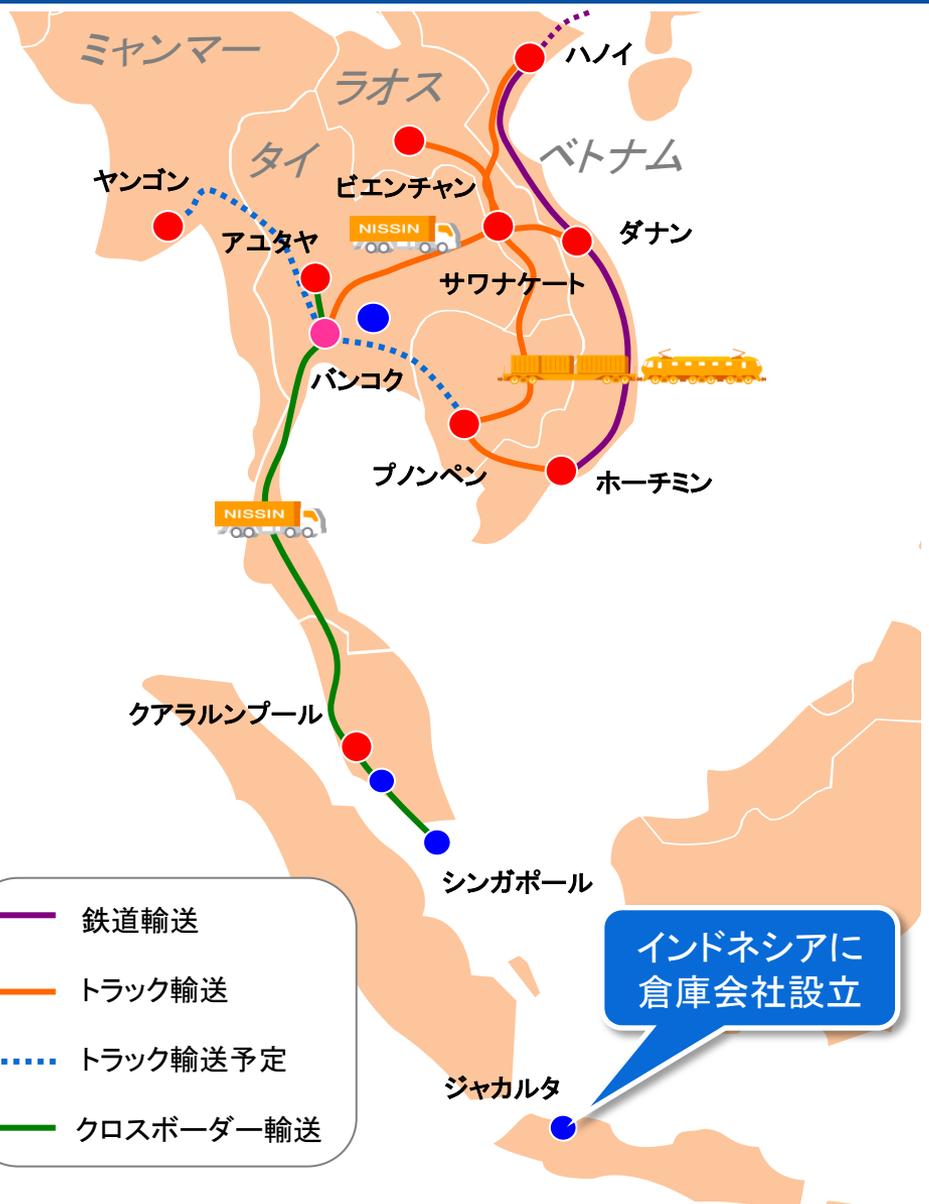
- 完成車相互補完体制の強化の動き
- 日本で完成車輸出入体制を整備

グローバル調達の
拡大

- 世界規模でのグローバル調達が加速
- 日新の強みであるネットワークを活かしてグローバル調達に対応

インドネシアにおける新たな物流サービス





ベトナム南北鉄道輸送サービス

- 2008年5月 カーワゴン(四輪車輸送)運行開始
- 2012年11月 ブロクトレイン(コンテナ鉄道)運行開始
- 2013年11月 ダナン支店開設

広域東西回廊(MLB)サービス

- 2012年3月 メコン・ランド・ブリッジサービス提供開始(タイ～ラオス～ベトナム間)
- 2014年4月 ラオス～カンボジアのルート完成

クロスボーダー輸送

- 1998年～ クロスボーダー輸送サービス提供中

倉庫拡充

- 2013年10月 マラッカ新倉庫稼働(8,500㎡)
- 2014年1月 シンガポール新倉庫稼働(5,800㎡)
- 2014年2月 タイ・プラチンプリ県で自動車部品向け新倉庫稼働(8,000㎡)
- 2014年3月 インドネシアに倉庫会社設立

食品専用低温トラック輸送

- 2012年4月 低温トラック輸送サービス提供開始

インドネシアに
倉庫会社設立

インドネシアにおける日新の展開

2004年 PT. NISSIN TRANSPORT
INDONESIA (インドネシア日新)
設立

自動車関連企業をメイン顧客に、
フォワーディング事業の拡大

インドネシア国内における動き

インドネシアの内需好調を背景とした
日系自動車メーカーの進出

東南アジアの生活向上による
新たな物流ニーズの発生

2014年 PT. NISSIN JAYA INDONESIA (日新ジャヤ・インドネシア) 設立
倉庫保管・国内配送サービスの開始

- 日系化学品メーカー様のJIT対応デリバリー倉庫業務、および、日系衛生用品メーカー様への国内配送業務



- インドネシアは成長著しい新興国（人口は世界第4位、GDPは3,500ドル（2013年時点））
→積極的に衛生用品関連事業へ展開

1. コンプライアンス



1973年の米国進出以来、海外展開の実績を豊富に持つ当社は、外資規制・事業規制が厳しいインドネシアでも、コンプライアンスに則った事業運営が可能

2. 高度な物流技術・品質



インドネシア国内においても、日本と同等以上の物流品質をもって日系企業のあらゆるニーズに対応可能

インドネシアにおける鉄道輸送サービス

- ジャカルタ～スラバヤ間(約800Km)の鉄道輸送サービスを2014年9月に開始

ジャカルタ・
タンジュプリオク港

スラバヤ



- 今後は3PL事業の拡大や輸出入フォワーディング業務の取り込みへ

第2四半期決算実績は 増収、営業増益

- アジア地域を中心に自動車関連物流が好調に推移、日本・欧州地域の改善に加え旅行が寄与
- 当期利益の減少は、第1四半期での特別損失

通期計画は 当期利益を除き変更なし

- 通期計画は、当期利益の修正以外は期初計画通り

自動車部品物流の 見通しは引き続き好調

- 自動車の現地生産拡大やグローバル調達増加に伴い、自動車部品物流は引き続き好調が見込まれる

インドネシアにおける 物流事業に新たな展開

- インドネシアに2社目となる新たな現地法人を設立
- 生活向上を背景とした国内物流需要へ対応